

校長通信

第3号 R1. 6. 14

受験生をもつ親の心得と英語民間検定情報

【1】はじめに

今回の校長通信は、3年生の保護者向けに受験生を持つ親の心得（1・2年の保護者も読んでくださいね）と、来年に実施される英語民間検定の情報提供（主に1・2年生の保護者向け）を行いたいと思います。3年生は、5月に実施された模擬試験の結果も返却され、現時点での「自分の実力」というものが明確になったと思います。この結果をもとに6月の個人懇談で、今後の受験勉強をどのように組み立てていけば良いかの話になります。ただ、残念なのは、今回の受験者が141名と少ないこと。昨年度は、7クラスですが、222名受験しています。受験されていない方は、今回の模試に代わる資料を持参していただければありがたいと思います。それでは、「受験生を持つ親の心得」の話からしたいと思います。

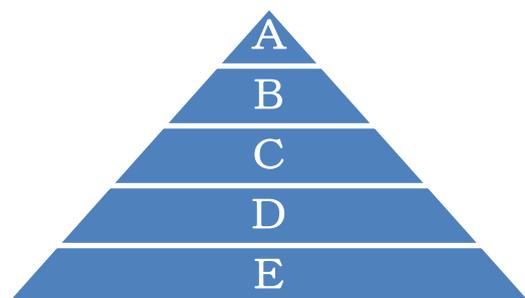
【2】3年前は大昔！

大学受験の話で、よく言われるのが「3年前は大昔」という事です。受験情勢は、毎年刻々と変わっていきます。私たちが常に最新情報を教育産業などから仕入れて、生徒への指導を行っています。ですから、保護者の方々も、この点について十分気を付けてほしいと思います。兄・姉の大学受験の経験をもとに、弟・妹に話をされると、ポイントがずれていることがあります。ましてや親の大学受験の経験は、「太古の話」です。

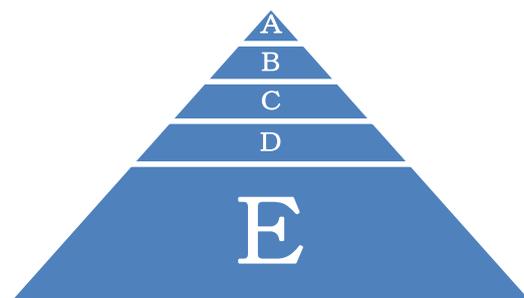
この観点から、特に注意を要するのが、「私立大学の入学定員の厳格化」です。この現象は、大学受験界に激震が走りました。今までなら当然合格していた受験生が不合格になる、こんなケースが大量に発生したのです。関関同立、産近甲龍レベルの入学定員厳格化が、摂神追桃レベルに影響を及ぼし、今では、「ある一定の学力を持っていないと、どこの大学も合格しない」と言われています。この流れは、今年の受験でも現れてきますので、ご注意ください。

【3】親が模試に一喜一憂しない！

まず、模擬試験の判定の話からします。模試の判定は、A・B・C・D・Eの五段階で判定されます。通常私たちは、次の左の図のようにこの5段階の模試判定をイメージします。しかし、実際の現役生の模試判定の分布は右の図のように、現役生では圧倒的にE判定が多いのが現状です。E判定を受けた受験生の9割が現役生というのが実態です。



イメージ



実際

なぜこのようになってしまうかという、浪人生と現役生間の実力差が、12月くらいまでかなり大きいことに起因しています。ですから、今の時点で、『E』判定だから、志望校に受からない」と判断するのは、愚の骨頂

です。現役生と浪人生の実力が拮抗してくる1月まで、志望校を下げる必要はありません。ですから、まずは親が模試の結果に一喜一憂することはやめましょう。受験生にとって良い影響ではありません。

そうすれば、どのように模試を活用すれば良いのでしょうか？それは次の2点です。

(1) 自分の弱点を知る。

各教科・科目の自分の弱点、それも学習の分野まで掘り下げて、自分の何が弱いかを知ることです。例えば、私は数学の教師なので数学を例に挙げますが、「二次関数はできているが、三角関数は弱い」、「対数・指数関数ができていない」、「微分積分の計算はできているが、応用問題が全滅」などです。

(2) 「あと何点取れば、ワンランク上がるか」を知る。

この自分の弱点を知ったうえで、あと何点とれば、「E→Dになるか」という目安を持つことです。総合点で60点足らないとすれば、国・数・英の3教科ならば20点ずつ上げれば良いことになります。その20点上昇させるために、どこを上げる必要があるのか、そのための「自分の弱点を知る」ことが重要になります。

保護者の方も、模試の結果が返ってきたときに、判定だけを見るのではなく、子どもの強み・弱み、そしてどの程度頑張れば、判定がワンランク上昇するのを見てほしいと思います。

【4】勉強についてとやかく言わない！

「勉強についてとやかく言わない」と言われると、「言わないと勉強しないじゃないですか！」と怒られそうですが、もう高校3年生にもなって親から「勉強しなさい」と言われなければ勉強しないようでは、そもそも、大学に本当に行きたいのかという事になります。また、親から「勉強しろ」とか「〇〇君(さん)は、〇〇大学めざすらしい」とか、言われるとそれだけで子どもは消耗してきます。イラついてくるのです。最後には「わかっているって言ってるやろ！」という言葉が返ってきて、「あんたはわかっていないから、私は言ってんねん」という親子げんかに発展します。これでは、せっかくの声掛けも逆効果ですね。

子どもは、「勉強しなければならぬことはわかっている」と思っていてあげてください。ただ、受験勉強は大変苦しいのです。受験勉強をやればやるほど、今までの己の不勉強を自覚する体験をします。だから、勉強に向かうのは相当な覚悟が必要なのです。スマホやゲームをしている受験生も、勉強しなければならぬことは十分に分かっています。ただ、勉強に向かうエネルギーが充填していないのです。この時、親からとやかく言われると、せっかく充填しかけたエネルギーも急速に減ってしまうのです。だから、勉強についてとやかく言うのは、止めましょう。それでは、親はどうすれば良いか？それが次の心得です。

【5】ルーチンワークを大切に！

受験生の親の心得というテーマですが、実を言うと受験生の親だから、特別に何かをしなければならないという事は、ほとんどありません。お金の用意をしっかりとするぐらいでしょう。受験料も馬鹿になりませんからね。逆に子どもに対して「何もしない」ほうが良いともいえます。先ほども言いましたが、受験勉強に向かうのは、とてもエネルギーが必要なのです。私の子どもが受験生の時、勉強部屋に向かうときは、「ハッ！」と大きな声で気合を入れていました。それほど受験勉強はしんどいのです。その勉強に向かうエネルギーが充填できるように、そして減らないように、生活のリズム、ルーチンワークを大切にすることが重要です。あとから受験生向けに勉強時間の目安を紹介しますが、勉強のリズムを大切にするために、食事の時間、お風呂の時間、就寝の時間などのルーチンワークを守ってあげることが、何よりも大切であると思ってください。それが、親ができる最大限のサポートです。言いたいことをぐっと堪えて、毎日のルーチンワークを大切にしていると、子どもも親の有難味がわかります。受験を終えて振り返った時に、真っ先に出てくる言葉は、親への感謝の気持ちです。「毎日、決まった時間に夕食を作ってくれてありがとう」「健康に気を付けてくれてありがとう」「眠いのに、夜食を作ってくれてありがとう」、そんな言葉が受験生から出てきます。子どもは、親の努力がわかっているのです。

【6】「かわいい子には旅をさせろ」

近畿圏に住んでいると、京大・阪大・神大という超難関校から大阪市大・府大という準難関校、私立大学も、関関同立、産近甲龍など大学選択に困るという事は、あまりありません。だからと言って、「家から通える大学を選びなさい」と親が子どもの選択の幅を狭めてしまうのもどうかと思います。大学は、同じ学部の看板を掲げていても、その教育・研究内容が大きく違います。まずは、全国を視野に自分の学びたい事が学べる大学・学部を

選ぶことが大切です。特に、理系の学部に進学を考えている場合と、資格を取る大学（たとえば教員養成系学部や薬学部など）を考える場合は、国公立大学をお勧めします。なぜなら、教育・研究環境が私立大学と全然違うからです。理系の学部では、実験がどれだけできるかが重要です。教授一人あたりの学生数（S/T比）が少ないほど、実験研究に専念できる環境が整っていると言えるでしょう。資格は、どこの大学で取得しても有効です。近畿圏に限定せずに、全国を視野に大学を選んでほしいと思います。「国公立大学は難しい」と思われているかもしれませんが、センター試験の平均点がボーダーゾーンになっている大学もたくさんあります。「入りやすくお得」という国公立大学もたくさんあることを知ってください。

また、昔からの格言で「かわいい子には旅をさせろ」と言います。これは、子どもの成長を願っての言葉です。以前勤めていた学校で、東京の大学に進学した子どもを親戚の家から通わせているという話を聞きました。その子は、高校時代は毎日親が起こさなければ起きない子だったのに、親戚の家に住むようになってちゃんと自分で起きて自立しているという話を聞きました。保護者の方は、「私の3年間の毎朝の子どもとの格闘はなんだったの!」と言われていましたが、子どもは「他人の飯を食う」ことにより成長するのではないのでしょうか。もう一度言います。

「かわいい子には旅をさせろ」

【7】受験生の勉強時間の目安

受験生の勉強時間の目安を紹介しましょう。平日4時間～5時間、休み9時間～10時間が目安です。これがない人は、「本気になっていない」と言えるでしょう。例えば、学校から帰宅して家に5時に着いたとしましょう。

17時～19時 2時間勉強
19時～20時 夕食と休憩
20時～22時 勉強
22時～23時 風呂と休憩・就寝

これだけで、4時間の勉強時間が確保できました。これに付け加えて、朝の勉強時間**1時間**確保してください。今、夜の時間に勉強時間を確保している人も、朝型の勉強に切り替える必要があります。理由は、簡単。試験は朝から始まるからです。朝から、脳のパフォーマンスを最大限にする必要があります。

休日は、

7時起床 朝食
8時半～10時半 2時間勉強（30分休憩）
11時～12時 1時間勉強
12時～13時 昼食 休憩
13時～15時 2時間勉強（30分休憩）
15時半～17時半 2時間勉強
17時半～19時 休憩・夕食
19時～21時 2時間勉強
21時～22時 休憩・お風呂
22時～23時 1時間勉強

これで勉強時間は $2 + 1 + 2 + 2 + 2 + 1 = 10$ 時間です。無茶な計画ではありません。10時間勉強すると決めると大変ですが、自分の24時間のどこで勉強するかを決めることが大切だと思います。自分で自分のルーチンワークを決めることですね。このくらいの勉強量が、普通の受験生です。

＜英語民間検定情報＞

現在の2年生から入試制度が大きく変わることはご存じだと思います。その一つが、英語民間検定の活用です。新聞では「まだまだ未確定で不安」という論調で報道されていますが、徐々にその姿が明らかになってきました。現時点での情報をお知らせしたいと思います。

【1】英語民間検定は個人が申し込む！

まず、大前提の話ですが、英語民間検定の受験は、個人が申し込んで受験するという事です。センター入試のように学校で一括して申し込む様式ではありません。まずは、この点を注意してください。その上で、7種類ほどある検定で、おそらくこの二つに受験生は集中するであろうと思われるGTECと英検CBTについて紹介したいと思います。

【2】GTECと英検CBT

	GTEC	英検 CBT
検定日	6月14日(日)・7月19日(日) 10月4日(日)・11月1日(日)	随時受験
受検方法	Reading・Listening・Writingは解答用紙、 Speakingはタブレット端末(音声吹き込み)	CBT(※)方式で受験 Computer Based Testingの略。4技能すべて、 パソコンを使ってテストする。
受検に際しての条件	3年次に2回まで受験	3年次に2回まで受験
試験監督	ベネッセコーポレーションが手配	英語検定協会が手配
会場	公開会場(全国の大学・高校・民間施設)	テストセンターで設置。すでにCBTに実績のある会場を用意する。
申し込み	個人申込み(webサイトから)	個人申込み(webサイトから)

上の表からもわかるように、GTECと英検CBTのテストでは、同じところもあれば、かなり違うところもあります。まず、日程ですが、GTECは年4回の日程が決定しました。簡単に言うと、1学期に2回、2学期に2回の受験機会(受験できるのは、そのうち2回のみ)があると言えるでしょう。英検は、「随時受験」となっています。英検は、テストセンターというものを設置します。テストセンターとは、すでにCBTによるテストの実績のある会場を英語検定協会が借り上げ、2時間ほどの試験を、随時実施するというものです。解答方法も違い、GTECはSpeakingだけタブレットに吹き込みますが、他の試験は、ペーパーに回答します。英検は、全てコンピューター上に解答するという違いがあります。

まだまだ、未定の部分がありますが、大学が発信する情報や新聞報道などに今後も注意してください。

＝コラム＝ 新聞・ニュースを子どもと一緒に見えていますか？

現在進められている教育改革で最も重要なことは、「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力など」や「学びに向かう社会性」です。この二つの資質・能力の育成のために学校も全力で取り組みますが、ご家庭でも取り組んでほしいと思っています。そのひとつが、新聞を読むことです。ネットニュースだけでは、自分の興味関心のあることに限られてきますし、情報が偏ってしまう傾向があります。新聞を読む習慣をつけるようにしてください。

また、ニュース番組やその解説番組を子どもと一緒に見て、感想を述べ合ったり、わからない点を解説してあげることをお勧めします。世の中の動きを知っていること、そのことを語ることは、「思考力・判断力」の育成や「学んだことをどのように社会に活かすか？」という社会性が身に着いていきます。NHKニュースや夜10時から放映されている「クローズアップ現代+」を見ることをお勧めします。このような日常的な取り組みの積み重ねが、読解力やデータ読み取り能力、思考力、判断力を育成していくと考えています。